

日本における 2010 年度の研究成果紹介

山本芳美

都留文科大学比較文化学科 准教授

【要旨】

今回のフォーラムにおいては、2010 年度（2010 年 4 月より 2011 年 3 月）に日本で出版された次に挙げる学術書 4 冊のうち、後者 2 冊を重点的に取り上げて紹介する。

2010 年度には、石垣直の学位論文をもとにした『現代台湾を生きる原住民——ブヌンの土地と権利回復運動の人類学』が出版された。

また、『台湾における〈植民地〉経験——日本認識の生成・変容・断絶』（植野弘子・三尾裕子共編）は、日本人研究者による「日治時代」の研究である。この論集では、原住民関連の研究として、末成道男「サイシャットから見た日本——日本統治初期における二人の抗日事件リーダーを中心に」、三尾裕子「警察官用原住民語教科書に見える原住民へのまなざし」、笠原政治「否定された台湾原住民族の旧慣——一九三〇年代を中心に」の 3 編が収録されている。

3 冊目は、笠原政治編『馬淵東一と台湾原住民族研究』で、第 2 回台日フォーラムを契機として「馬淵東一」をキーワードに深められた研究成果の集成である。

最後に挙げる一冊は、山路勝彦『台湾タイヤル族の 100 年——漂流する伝統、蛇行する近代、脱植民地化への道のり』である。本著は 30 年間にわたる台湾原住民族研究を、タイヤルを中心にまとめたものである。（いずれも風響社より出版。文中では順不同に紹介）

目次構成などの詳細は、当日配布するレジユメで紹介したい。

日本學界 2010 年度研究成果之介紹

山本芳美

都留文科大学比較文化學科 準教授

【摘要】

在這次的研討會中，會從下列 2010 年度（2010 年 4 月至 2011 年 3 月）出版的四本的學術書中，將重點放在後兩本書來介紹。

2010 年度，出版了一本以石垣直的學位論文為基礎的《活在現代台灣的原住民——布農的土地與權力恢復運動的人類學》。

而《在台灣（殖民地）的經驗——日本認知的生成、變容、斷絕》（植野弘子，三尾裕子共編），是由日籍學者所進行的「日治時代」研究。在此論文集當中，收錄了與原住民相關研究的三篇論文，分別為：末成道男著〈サイシャットから見た日本——日本統治初期における二人の抗日事件リーダーを中心に〉（從賽夏族來看得日本——以在日本統治初期的兩名抗日事件的領導者為中心）、三尾裕子著《警察官用原住民語教科書に見える原住民へのまなざし》（警察官專用原住民語教科書中可見的對原住民的眼光），以及笠原政治著〈否定された台湾原住民族の旧慣——一九三〇年代を中心に〉（被否定的台灣原住民的舊習慣——以 1930 年代為中心）。

第三本是笠原政治編著《馬淵東一と台湾原住民族研究》（馬淵東一與台灣原住民族研究），此書是以第二次台日論壇為契機，將深入研究「馬淵東一」的成果集大成之作。

最後一本是山路勝彥著《台湾タイヤル族の 100 年——漂流する伝統、蛇行する近代、脱植民地化への道のり》（台灣泰雅族的 100 年——漂流的傳統、蛇行的近代、非殖民化的歷程）。本著作是將長達 30 年的台灣原住民研究，以泰雅族為中心匯集而成的。（都是風響社出版。在文中介紹的順序不同）

而關於目錄架構等詳細的內容，本人將會在當天所發布的資料來介紹。

（譯者：向禹丞）